

宮城県色麻町

持続可能な未来をつくる、色麻のいま。

2021.06.01

Vol.

1

June, 2021

創刊号

隔月1日発行

しかま支え合い 情報誌



特集

地域がつながる 野菜畑

移住してきた方々には、
交流を深めてほしいし、
地域を好きになってほしい。



作業の説明をする堀籠さん。本を使いながら、子どもたちにも分かりやすいように話します。

住宅地の隣にある みんなの畑

四月十一日、よく晴れた日曜日の朝、畑から子どもたちの楽しそうな声が聴こえて来ます。宮城県にある色麻町（しかまちょう）の向町地区には、旧小学校跡地にできた「あたごふれ愛タウン」という住宅地があります。この住宅地には町外から移住されてきた方々が大勢暮らしています。

あたごふれ愛タウンの北側に「ほりごめファーム」の愛称で親しまれている共同農地があります。「俺もそんなプロって訳じゃないんだけどさ」と照れくさそうに笑うのは、ほりごめファームのオーナーであり畑作業を指導する堀籠文夫さん（七〇）。この日はジャガイモを植えるということ、種芋がたくさん用意してありました。



親子で会話しながら、一緒に作業しています。

野菜作りで 地域との交流を

12 つくる責任
つかう責任



ことの発端は三年前の新年会。東京の池袋から移住された布施さんが、一緒に飲んでいた堀籠さんに話したことがきっかけでした。「東京から引越してきたので、畑をやってみたいと思ってたんですよ。ふれ愛タウンの皆さんや地域の皆さんとも仲良くなりたいたいで、堀籠さんをお願いしたんです」。

お願いされた堀籠さんは、その場で快諾。ご自身が所有する畑を提供することになりました。「ふれ愛タウンに引越してきた人たちは、ずっと向町で暮らしていくんだから、交流を深めたかったし、何より地域を好きになってほしいからね」。

こうして、「ほりごめファーム」が誕生しました。

向町地区にあるあたごふれ愛タウン。



親も子どもも交流できる 移住してきた人も馴染みやすい

畑には、共同のエリアと個別のエリアがあります。この日は、共同エリアにジャガイモを植えました。ふれ愛タウンの住民の方々が、家族ぐるみで作業しています。

この日参加されていた石岡さんは、「共同作業の日はちょうど日曜なので、子どもと一緒に参加できるし、親同士も交流できて楽しいですね」と話してくださいました。

個別エリアは、一帯ひと月千円で借りられます。世帯毎に好きなものを作ることが出来ます。珍しい野菜を作る方もいるそうです。

布施さんは「ほりごめファームは、家族同士交流できて、子ども同士も仲良くなるし、私のように町外から引越してきた人もとても馴染みやすいです」と、満足げにお話されていました。



畑の隣は梅林。コロナ禍でなければ、BBQの予定でした。



畑づくりをお願いした布施さん。



春の花々を摘んで、嬉しそうな子どもたち。



Information

【生活支援コーディネーターからのお知らせ】

**あなたの活動・地域の活動情報をお寄せください！
生活支援コーディネーターの菅原が伺います(^-^)/**

こんにちは！色麻町生活支援コーディネーターの菅原一杉です！

皆さんの地区で地域のために活動されている方や地区での活動、お茶飲み会や各種ものづくり等の情報がございましたら、下記の連絡先までご連絡ください。

生活支援コーディネーターの菅原が取材にお伺いし、支え合い情報誌にてご紹介させていただきます。支え合い情報誌は、町内全戸配布の他、町外・県外の施設にも配布されます。

皆さんの地区の活動が、町内外の地域を活性化するヒントとなり、よりよい社会づくりに貢献していきたいと思っています。ご協力よろしくお願いたします！

【連絡先】

TEL:0229-65-2260 FAX:0229-66-1713
E-mail:shikama.shakyo@vesta.ocn.ne.jp



色麻町社会福祉協議会
色麻町生活支援コーディネーター

すが わら かず すぎ
菅 原 一 杉

SDGsを知っていますか？

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。SDGs（エス・ディー・ジーズ）と読みます。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。住民の皆さんの取組も、これらの目標のうちの何かにはあてはまっていると思います。色麻社協は、皆さんの世界をよりよく変えていくための取組を応援いたします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【17の目標】

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリシップで目標を達成しよう

登録型お茶っこ会支援助成金のお知らせ

町内で高齢者等の集いの場として「お茶っこ会」の開催を年間10回以上行っている5名以上（5世帯以上）の任意団体様に、経費の一部を助成いたします。（※各支部で行っている、「お茶っこ会」は除きます。）高齢者が住み慣れた地域の中で、安心して暮らせるよう支援する様々な活動を対象としており、文房具代、弁当代、茶菓子代、印刷代、光熱水費、ボランティア保険料等の経費が対象となります。

助成総額は80,000円で、1団体につき10,000円を上限として助成いたします。申請用紙等は、本会事務局窓口か本会ホームページ（URL：<http://www.shakyo.or.jp/hp/287/>）よりダウンロードしてください。令和3年6月1日から受付開始します。

コロナ予防を踏まえた開催方法などのご相談も承ります。詳しくは、色麻町社会福祉協議会まで（TEL. 0229-65-2260）お問い合わせください。

ふれあいは一と訪問 協力員募集

新型コロナウイルス感染症の影響で人と話す機会が減少したことにより、高齢者の健康状態や精神状態への影響も深刻になっています。このような状況を少しでも改善しようと、色麻町在住の75歳以上一人暮らし世帯を訪問する活動が、ふれあいは一と訪問です。

今回はその訪問をしていただく協力員の方を募集いたします。条件は下記のとおり。

【活動内容】

9月・10月・12月・3月に、月に2回ずつ訪問。うち1回はお弁当の配達。

【応募資格】

町内在住の20歳以上75歳未満の男女（大学生可）。要自動車免許（AT限定可）。

【謝金】 月5,000円

【応募方法】

色麻町社会福祉協議会（TEL. 0229-65-2260）までお問い合わせください。

しまま支え合い情報誌 vol.1

発行：社会福祉法人色麻町社会福祉協議会

〒981-4122 宮城県加美郡色麻町四竈字杉成 27-2

TEL：0229-65-2260 FAX：0229-66-1713

E-mail：shikama.shakyo@vesta.ocn.ne.jp

URL：http://www.shakyo.or.jp/hp/287/

しまま支え合い情報誌は、色麻町生活支援体制整備事業の一環として発行しています。